

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	da・monde EAST		
○保護者評価実施期間	2025年12月5日 ～ 2025年12月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	季節ごとのイベントを企画し、長期休みや祝日には利用児童たちが楽しめる場所に連れて行ってして、利用児童はいつも楽しみにしている。	季節ごとのイベントや長期休みの外出活動では、児童の興味や	今後は児童の意見を取り入れた参加型の企画づくりや、外出先のバリエーション拡大、保護者との情報共有を強化し、より満足度の高い活動を目指す。また、イベント後の振り返りを仕組み化し、安全面の確認と支援の質向上につなげていく。
2	どの利用児童も楽しく通う。	利用児童一人ひとりの特性に合わせた関わりを大切にし、安心	今後は児童の意見を取り入れた活動づくりや、個別支援の質向上、活動のバリエーション拡大を進め、より満足度の高い支援を目指す。また、職員研修や情報共有を強化し、どの児童も安心して楽しく通える環境をさらに整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・階段が危険を感じる時がある。 ・車椅子の児童を受け入れできる施設ではない	階段の構造上の滑りやすさや照明の暗さに加え、利用児童の特性（急な走行・注意散漫・バランス不安定）により、階段で危険を感じる場面がある。また、利用が集中する時間帯には職員の見守りが薄くなることも要因となっている。	・改善に向けた取り組み階段利用時の安全指導を徹底（職員が付き添う、声掛けを強化） ・現状の施設構造上の制約を明確にし、保護者へ説明する。 将来的な改善は困難と見込まれるため、現状維持であることを理解いただく。 ・階段の安全性について、手すりや滑り止めの点検を定期的に実施。
2	職員を増やしてほしい。	利用児童数や特性に対して十分な見守り体制が確保しにくい時間帯があり、個別対応が必要な利用児童も増えているため、職員配置が課題となっている。今後はピーク時間帯の重点配置や柔軟な対応形態の導入、業務効率化による負担軽減を進め、適正な支援体制の確保を図る。	保護者には「基準人数は満たしているが、必要に応じて増員対応を行う」旨を説明する。利用児童さん人数や活動内容によって「臨時的に応援職員を配置する」など柔軟な体制を検討。
3	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等（人から喧まれた時には教えてほしい。）について説明がされているかどうか。	事故発生時の連絡手順が統一されておらず、状況説明に差が出るのが課題である。	怪我やトラブルが発生した際には、これまで以上に迅速かつ丁寧に状況をご説明し、保護者様に安心していただけるよう努めていく。今後は連絡フローの明文化、速やかな保護者連絡の徹底、噛みつき等のトラブル時の説明方法の統一、事故報告書の簡略化を進め、正確で迅速な情報提供を行う。
4	支援の質の均一化。	職員間で声かけや対応方法にばらつきがあり、児童の特性理解や情報共有の不足から、支援の質に差が生じることがある。また、マニュアル化が不十分で、経験に依存した支援になりやすい点も課題である。	利用児童への関わり方に差があると感じられたとのこと、真摯に受け止めていく。今後は、職員間での情報共有や研修をさらに強化し、また、ケース会議や研修を定期的に行い、利用児童理解を深めるとともに、職員配置を工夫し、どの職員が対応しても安定した支援が提供できる体制を整える。